

第4章 实践事例集

実践事例の一覧

地域の未来像を共有するための学びの場づくり			頁
1	学びのカフェ～地域ジンまちカフェプロジェクト～	大竹市玖波公民館	32
2	このまちに暮らしたいプロジェクト	広島市古田公民館	34
3	地域の宝・歴史学習	広島市福田公民館	36
4	ふちゅう井戸端会議	府中市生涯学習センター	38
5	未来のタネを見つけよう	庄原市比和自治振興センター	40
地域の人材による家庭教育支援			
1	子育て支援者ボランティア学習会	広島市佐東公民館	42
2	子育て応援交流会（井戸端かふえ）	広島市祇園西公民館	44
地域の人材による地域学校協働活動の推進			
1	親と子の地域で過ごすサマーバケーション	府中市栗生公民館	46
2	通学合宿	東広島市小谷地域センター	48
3	宿泊体験学習	尾道市重井公民館	50
地域防災・減災の仕組みづくり			
1	防災フェア in 向東！	尾道市向東公民館	52
2	防災研修&炊き出し訓練	庄原市口和自治振興センター	54
その他（地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成）			
1	郷土料理本「残しておきたいおふくろの味」	神石高原町神石協働支援センター	56
2	満喫！かべ学「ボランティア養成講座」	広島市可部公民館	58
3	地元の素材で和紙作り	府中市協和公民館	60

学びのカフェ～地域ジン学びのカフェ～ 地域ジンまちカフェプロジェクト

地域を学ぶ	●	地域でつながる	●	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 23 年 7 月～	玖波公民館	【「学びのカフェ」スタート】 ○月に一回、タイムリーな題材やおしゃれで楽しい講座を実施。 ○講座の合間に参加者同士が交流する「カフェタイム」を設け、参加交流型学習を実施。 ○講師や題材に地元の地域資源を発掘・活用。 ○取組を広めるためにフェイスブック・ブログで積極的に情報発信。
平成 24 年 度		○ティディベア 着物リメイクで世界に発信（講演） ○ティーカップを学びながら「マイセン・ウェッジウッド入門」 ○夏のタベ ロビーコンサート 地元の演奏家 ○活断層 大竹は大丈夫？地震に強いまちを提案 ○知っておきたい相続の基本&日野原重明の100歳の金言 ○「ふしぎ探検！くらしの中の右・左」めくるめく左右不思議ワールド ○地理の先生の旅の楽しみ方「イースター島のモアイ像の謎」 等
平成 25 年 度～		【「地域ジン」誕生】 ○講座が定着し、参加者に仲間意識が生まれ、お互いを「地域ジン」と呼び合うようになり、講座名を「地域ジン学びのカフェ」とした。 ○講座の演題幕、名刺、ユニフォーム、幟、テーマソングCDを手づくりするなど積極的な活動が生まれた。 ○講座の中から自主組織「地域ジンまちカフェプロジェクト」が発足。 ○「見知らんガイドマップ&グルメスタンプラリー」、「古民家まちカフェ」、「まちの資料館」、「くぼコレ」など多数の地域イベントが企画・開催されている。
  		
対象	地域住民	
経費	主催講座予算、各種助成金活用ほか	
連携先	中学校、社会福祉協議会、企業等10団体	

問
合
せ
先

大竹市立玖波公民館
大竹市玖波一丁目10-1
電話 0827-57-7084 ファクシミリ 0827-59-0004

2 講座設定の理由（事業の目的）

○玖波地区は空き家・空き店舗が目立ち、独居高齢者が多く住民同士の繋がりも薄いなど、多くの課題があった。公民館は古く、講座もマンネリ化しており来館者も少なかった。そこで、公民館のイメージチェンジを図り、人が集う公民館とした。また、玖波の地域資源（歴史・文化・人材など）を生かし、ふるさとを愛する心を育みながら、学校・地域・公民館が連携・協働してまちづくりを行う取組を始めた。

3 学習目標

○玖波の地域資源（歴史・文化・人材等）について知る。
○公民館職員と「地域ジン」とが共にPDCAサイクルを構築し、ふるさとを愛する心を育むと共に、住民が主体的にまちづくりに係ろうとする意欲を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

○玖波に眠っている宝物（歴史・文化・人材等）や世の中で話題になっている情報を集めるようにした。
○フェイスブック、ブログを活用し、積極的に情報発信し、協力・連携団体を増やして地域をまるごと巻き込むようにした。

5 留意点

○まちを変えるのは「人」であり、すぐに結果を求めず、継続して取組を進めた（諦めない姿勢が大切！）。
○少ない職員（常駐1人）と予算の中で、参加者の意識改革や多様な人を巻き込むための方策を考えた。
○地域の方が、やらされるのではなく、やりたいと思ってもらえるような取組になるように意識しておく。

6 成果

○参加者は平成28年度に3,636人にのぼり、協力・連携団体数は21団体になった。SNS更新数は年間365回以上を達成した
○多世代間の住民の絆づくりが行われ、学校・地域・公民館の連携が取れるようになった。
○多くの参加者が自覚をもち地域の課題に取り組むようになった。
○平成26年度には文部科学省の第67回優良公民館表彰において最優秀館として表彰された。
○平成27年度には広島県チャレンジフォーラム2015地方創生 まち部門で表彰された。

7 課題

○まずは、地域の方が集まらないといけないし、地域課題に対することも、やらされているのではなく、やりたい気持ちにならないといけない。→平成23年度に「学びのカフェ」の開始
○中学校との連携は非常に難しかった。何年もかけて、やっと生徒が来るようになった。
○カルチャースクールとの差は、「学び」を地域に生かすということである。また、「人」と「人」のつながりをつくるのが大事であり、それは防災や防犯等、様々ことにつながり、まちづくりの基礎になる。

8 今後に向けて

○講座を継続開催し、地域におけるコミュニティエリアを拡大し、ふるさとを愛する心や地域を担う人材を一層多く育み、PDCAサイクルを働かせながら、地域全体を巻き込みながらあらゆる地域課題を発見し、その解決に向けて取り組んでいきたい。

このまちにくらしたいプロジェクト

地域を学ぶ	●	地域でつながる	●	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 5 月 28 日 (日)	古田公民館, アルパーク	オリエンテーション, 冒険あそび場 PR
6 月 11 日 (日)	古江西町公園	第 1 回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
7 月 23 日 (日)	広島市中央公園	冒険あそび場体験実習①
8 月 20 日 (日)	古江西町公園	第 2 回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
9 月 24 日 (日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ①
11 月 5 日 (日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ②
11 月 26 日 (日)	広島市中央公園	冒険あそび場体験実習②
12 月 17 日 (日)	古江西町公園	第 3 回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
2 月 4 日 (日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ③
3 月 4 日 (日)	古江西町公園	第 4 回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催



対象	園児, 小学生, 中学生, 高校生, 大人 延べ 615 人
経費	53,347 円 (内訳: 報償費 25,000 円・需用費 28,347 円)
連携先	多世代寺子屋ネットワーク, もとまち自遊ひろば「ゆうえん隊」, 古江西町町内会, 古江女性会, 古田学区子供会

問
合
せ
先

広島市古田公民館
 広島市西区古江西町 19-15
 電話 082-272-9001 ファクシミリ 082-272-9001

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 少子高齢社会、人口減少社会等を見据え、中学生を主体に地域住民など多世代が連携し、地域課題に対応するまちづくり活動に取り組む。
- これらの学習や活動を通して、社会に主体的に関わり、行動する人材を育む。

3 学習目標

- プロジェクトをよりよくするためのアイデアを出し合い、企画・運営することができる
- 地域への愛着をもつと共に、自分にできることを実践しようとする意欲を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 意見を出し合う場の設定や雰囲気大切に、互いの意見を尊重するようにする。
- 記録（写真・アンケート等）を残し、改善につなげていく。
- 来場する保護者には、子供の活動を見守るようにお願いして、なるべく支援をしないようにしてもらう。

5 留意点

- 中学生以外にも、参加する高校生や大学生がゲスト的な立ち位置にならないよう、それぞれに遊びの企画をつくる課題提案を依頼し、自発的な意識づけを促す。
- 持続可能な取組にしていくために、事務的な手続きも徐々に連携団体に引き継ぎをしていく。

6 成果

- プロジェクトが開始してこの5年間に整備・蓄積してきた運営ノウハウを生かし、イベント実施回数を前年比倍増の年4回行うことができた。また、近隣の郵便局等で活動を紹介する写真展も実施するなど、住民向けの広報も積極展開している。これらにより、冒険あそび場の認知度は一層高まり、地域団体や住民等の支援や協力も充実しつつある。
- 中区基町で行われている「もとまち自遊ひろば」との交流活動の中から、SNSを活用した冒険あそび場づくりのネットワーク「つくるあそび場ねっとひろしま」が発足し、他地域の活動団体との情報交換や交流の場が生まれた。

《アンケート結果》

- 満足したと答えた来場者 93%。
- イベント参加体験後、地域の公園に対する考え方が変容した人 85%。

7 課題

- 募集時に中学1年生の参加が少なく、学年の偏りがあることから、次年度の世代交代時の影響が懸念されるため、募集方法の工夫が必要である。
- 予算の確保を助成金に依存しているため、運営経費の捻出に工夫が必要である。現在は公園でのバザー販売や寄付募集などができないため、カフェやおやつは無料提供している。子供会など地域団体等との連携なども視野に、地域行事としての支援を得やすい方向性を探りたい。

8 今後に向けて

- 中学生によるプロジェクトチームが「広島県子ども夢基金」の助成を受けて、始動している。
- これまで来場者だった小学生が企画運営メンバーとして参加してきており、公園の主役である子供たちが、自分たちのあそび場を自分たちで作りだすことに期待している。
- 冒険あそび場ネットワークに参画し、あそび場マップづくりや交流シンポジウムなどを計画中しており、公園活用以外のテーマを探るとともに、プロジェクトとしての自立を促進するサポートを行う。

地域の宝・歴史学習

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 7月14日(土) 10:00~11:30	福田公民館	①テーマ：歴史セミナー【夏編】 ～福田型銅鐸と奴国弥生時代の国々～ ○福田の歴史を学ぶ ・なかずの池, 行基仏像, 木の宗山城主等
7月22日(日) 9:30~11:30		②テーマ：福田まなび塾 ～福田の歴史と銅器づくり～ ○福田の歴史について ○銅剣, 銅鐸, 銅戈づくり
11月17日(土) 9:30~12:30	地域	③テーマ：歴史セミナー【秋編】 ～謎の福田型「銅鐸」, 行基作「念持仏」に魅せられて～ ○福田地域の史跡散策 ・銅剣, 銅鐸, 銅戈出土地(烏帽子岩), なかずの池等
平成 31 年 3月2日(土) 9:30~13:00		④テーマ：地域の宝「木の宗山」の清掃登山 ○登山道の清掃 ・福木幼稚園の木の宗山卒業登山の前に登山道を清掃, 整備する。 ○福田の歴史を学ぶ ・木の宗山(登山道の烏帽子岩にて) ○昼食(カレー)



対象	①③④地域住民 ②小学生(2年生以下は保護者同伴)
経費	①③④参加費：無料 ②参加費：500円(材料費) 講師謝金：0円(歴史文化保存会, 老年会連合会)
連携先	福田歴史文化保存会, 福田老年会連合会, 福田地区社会福祉協議会, 福木女性会

問
合
せ
先

広島市福田公民館

広島市東区福田四丁目 4152-1

電話 082-899-2901 ファクシミリ 082-899-2901

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 銅剣，銅鐸，銅戈が出土した木の宗山や地域の歴史を知ること，地域への愛着を深める。
- 地域住民同士のつながりが希薄化する中で，清掃登山活動を行うことで，いろいろな世代の地域住民の交流の場を設ける。

3 学習目標

- 福田の歴史について知る。
- 地域への愛着心・関心を高める。
- 地域住民同士の交流を深める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 講師との連携（歴史文化保存会，老年会連合会等）
- 各団体との連携
- 雨天時の対応（順延や短縮等）
- 安全面での配慮（史跡散策，清掃登山）

5 留意点

- 中学生にも清掃活動に参加してもらうことで，ボランティア意識を高めるとともに，中学生と地域住民との交流の場となるようにする。

6 成果

- 清掃活動は長年にわたる取組であるため，他団体との連携や運営もスムーズに行うことができている。「また参加したい」等の肯定的な声が聞かれ，リピーターも多く参加している。
- 幅広い世代に福田の歴史について学んでもらうことができている。
- 長年住んでいても「木の宗山」へは初めて登ったという方もおられ，地域を知る機会となっている。
- 幼稚園にも卒業登山前に地域の歴史をまとめた紙芝居を朗読のグループが読みに行っている。

7 課題

- 講師が高齢のため今後の後継者が心配である。
- 雨天時の対応を考える。（清掃登山においては，後日有志だけで清掃活動を行う）

8 今後に向けて

- 今後も他団体と連携をしながら継続していく。
- 講師も高齢のため，後継者になる方を意識しておく。参加者の中から後継者が育つとよいが，参加者のプレッシャーにならないようにしていかなければならない。

ふちゅう井戸端会議

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
第1回 平成30年 8月26日(日) 13:00~17:00	府中市 生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨, 目的, 流れ等の説明 ○チェックイン (参加者の状態や気持ちの共有), アイスブレイク ○講師 (まちづくりに関わる人) の活動紹介 ○活動紹介の中で感じたことをグループ内と全体で共有 ○ワーク「まちづくりについて」「府中, あるいは自分の住んでいる町の好きなところは?」(2人組) でインタビュー ○興味・関心事が似た人とグループワーク ○全体シェア (各グループで出た意見を発表する)
第2回 9月30日(日) 13:00~17:00		<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨, 目的, 流れ等の説明 ○チェックイン (参加者の状態や気持ちの共有), アイスブレイク ○ファシリテーション講座「場づくりの説明 (物理的デザイン+心理的デザイン)」 ○実際に様々な技法を体感する。
第3回 10月14日(日) 13:00~17:00		<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨・目的・流れ等の説明 ○チェックイン・アイスブレイク ○講師のデザイン等活動の紹介 ○グループ交流「もっと知りたいこと」「ヒントが得られたこと」(4人組) ○質疑応答 ○チラシ作り講座 ○チラシ作りワーク (レイアウトを考える)



対象	まちづくりや市民活動に興味のある人
経費	講師謝金 37,800円 (2日分打合せ), 講師補助 5,760円 (1回あたり), ゲスト講師 10,000円 参加費無料
連携先	第1~3回 講師: 小谷直正 (ファシリテーションびんご) ゲスト: 水主川緑 (NPO法人府中ノアンテナ代表理事)

問合せ先

府中市教育委員会生涯学習課
府中市府川町315番地
電話 0847-43-7181 ファクシミリ 0847-46-3450

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 学びの機会及び交流の場を提供することで将来の地域づくりを担う若手の人材を育成し、地域社会が活性化していくシステムを構築する。
- 地域の連帯感や支え合いの意識が希薄になってきている中で、人と人とのつながりを持てる場を設定することで、人と人とのマッチングや人材発掘に繋げる。

3 学習目標

- 全体：まちづくりについて関心事を深めることとそれを形にするための技法を学ぶこと。
- 第1回：まちづくり活動している人の話を聴き、参加者のやりたいことを発掘し、参加者同士で交流する。
- 第2回：ファシリテーションの技法を学ぶ。
- 第3回：デザインの大切さを知り、実際に伝えることを重視したチラシをつくる。

4 事前に必要な知識や準備物

- ホワイトボード、模造紙、プロジェクター、スクリーン、名札、アンケート用紙等
- 講師との連携
- おかしや飲み物（カフェのような雰囲気づくり）

5 留意点

- 講師との打合せ（月1回以上）
- 広報（町内会回覧板、公共施設へのチラシ等設置、企業へのチラシ配布、HP、フェイスブック）
- 参加者にメールアドレスを聞いておくことで次回や別の事業の案内を送れるようにする。

6 成果

- 幅広く広報を行ったため、企業からの参加者もいた。
- 参加者同士をマッチングさせることができ、新たな活動に繋げることができた。
- アンケート結果：「活動したいと思った（50%）」「他の人の話に興味をもてた（50%）」

7 課題

- 対象が広すぎた。もう少し年齢層を絞るなどしていかないといけない。
- すぐにアウトカム（波及効果）が出るものではないため、経過についてアンテナをはって地域の情報を集めていかなければならない。
- 広報紙の内容が分かりにくいという指摘があった（どのような内容でどのようなことをするか）
- 設定時間が4時間だと長く感じる（実際はワークショップ等を行うので体感時間は短く感じるのだが）

8 今後に向けて

- 公民館の職員にも参加してもらってノウハウを学んでもらい、各公民館で職員がファシリテーターとなってまちづくりへの取組につなげていく。
- 対象を絞っていくとともに分かりやすい広報を心掛ける。
- 地域の行事とも重ならないような日程を組んで実施していく。

未来のタネを見つけよう

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 1 月 24 日(水) 5・6 校時	庄原市立 比和中学校	テーマ：比和に住んでもらうために必要なこと（PR） ○ワークショップ ①比和の自慢できる資源は何ですか？ ②それをどのように利用すれば、人を呼び込めるとおもいますか？ ③実現するために、自分は何ができますか？どんなことがしたいですか？
2 月 7 日(水) 5・6 校時	庄原市立 比和小学校	テーマ：比和の未来の種を見つけよう ①比和の自慢できる資源は何ですか？ ②実現するために、自分は何ができますか？どんなことがしたいですか？
3 月 10 日(土) 10:00~12:30	比和自治振 興センター	○開会行事・趣旨説明 ○小学生、中学生の発表 ○未来へ残したいものと自分たちにできること（小学生） ・地域活性化のための提言（中学生） ○パネルディスカッション 「子供達の提言を受けて、地域の活性化のために今後取り組むこと」 ・コーディネーター：地域再生診療所 井上弘司 ・パネリスト：比和自治振興代表、子育てコーディネーター、庄原社教比和地域センター代表、PTA代表 ○全体総括 ・地域再生診療所 井上弘司



対象	比和町地域住民 120 人
経費	参加費無料 謝金支出など
連携先	比和小学校，比和中学校，庄原市役所比和支所，庄原市社会福祉協議会比和地域センター

問
合
せ
先

庄原市比和自治振興センター
庄原市比和町 1991-1
電話 0824-85-2600 ファクシミリ 0824-85-2421

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 少子高齢化の進展の中で少しでも人口減少を抑制するため、郷土に愛着を持つ子供、若者を育てる。
- 地域学校協働活動や子育て支援に力を入れて町外の方にも地域の良さを分かってもらい、この地域で子供を育てたいと思えるようにしていきたい。

3 学習目標

- 比和の魅力について気付く。
- 地域の宝を守り、残していこうとする意識を育てる。

4 事前に必要な知識や準備物

- 広報チラシ
- PPT資料
- コーディネーター、パネリストとの連携

5 留意点

- 三者（市役所比和支所、社会福祉協議会比和地域センター、比和自治振興センター）での連携を密に図り、方向性を共有しておく。
- 地域、学校が協働して地域で子供を育てるという意識を共有しておく。

6 成果

- 大人にとって当たり前だと思っていたものを子供たちが地域の宝として提案してくれたことでその良さについて再確認することができた。
- 子供たちの様子を見て、未来に地域の宝を残し、守っていかないといけないという大人の意識が変わってきた。

7 課題

- 地域づくりの学習はまだこれからであり、みんなで地域の宝を守り育てていくという意識を育てていく。
- 提案されたものを行動に移していくためにみんなが学んで行く必要がある。
- 人材が不足しているので連携先と役割分担をするなど組織の在り方を検討していく必要がある。

8 今後に向けて

- 子供たちが提案してくれたもの（そばクレープ、酒米で作った甘酒等）を形にしていく。
- 振興計画に沿って、大人も地域を見直し、何ができるかを考えていく

子育て支援者ボランティア学習会

地域を学ぶ	—	地域でつながる	—	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 2月 21 日(水) 10:00~12:00	佐東公民館	テーマ：わらべうたで子育て支援 ○わらべうたについて <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたとは ・わらべうたの分類 ・成長の段階をおって、人として大切なもの ・わらべうたは日本語のリズム ○実践してみよう <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び ・集団遊び ・数遊び 等
平成 31 年 2月 13 日(水) 10:00~12:00		テーマ：絵本から始める子育て支援 ○大人から子どもへ～絵本を手渡しするためのアドバイス～ <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい時間の提供 ・コミュニケーションの道具（しつけや文字を覚えるものではない）等 ○読み聞かせでの本の持ち方、読み方 <ul style="list-style-type: none"> ・子どものペースで読む ・教育にこだわらない 等 ○絵本の選び方



対象参加者	子育て支援等の活動に携わっている方，子育て中の方，関心のある方（参加者 29年度：17人，30年度：10人） 託児（29年度：1人，30年度：1人）（先着5人：無料）
経費	参加費0円 講師謝金 12,000円，監護謝礼金 1,800円（託児1組利用）
連携先	子育て支援者ボランティア

問
合
せ
先

広島市佐東公民館
 広島市安佐南区緑井六丁目 29 番 25 号
 電話 082-877-5200 ファクシミリ 082-877-5200

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 公民館で子育て支援等に携わる活動をしている人（団体）に活動のステップアップとなる学習機会を提供する。
- ボランティア同士の情報交換・交流の場とする。

3 学習目標

- 子育て支援ボランティア活動する上で身に付けておくとい技能を身に付ける。
- 子育て支援ボランティア団体同士のネットワークを構築する。
- ボランティア活動への意欲を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 子育て支援者ボランティア（まほうのポケット，子育てサロン Sugar，図書ボランティア，託児ボランティア）へ案内する。
- 行事等の少ない2月に実施することで参加しやすいようにする。

5 留意点

- 子育て中の方も参加しやすいように託児付きとする。（託児ボランティアに監護者になってもらう）

6 成果

- 子育て支援者，子育て中・孫育て中の方がそれぞれ目的をもって参加されていた。
- 講師による学習会は大人自身が癒され楽しい学習の場となった。
- アンケート結果（今後の活用意欲 100%）「子供たちに伝えていきたい」「支援活動に活かしていきたい」とあり，ねらい通りの成果を得た。
- 託児付にしたことで子育て中の方の参加が得られた。

7 課題

- 参加者の中には，スキルアップまで望まない方もおられ，意欲を高めることが難しい。

8 今後に向けて

- 継続を望む声も多く，引き続き公民館として支援者への学習の場を提供していきたい。
（例）救急救命，AEDの使い方等

子育て応援交流会（井戸端かふえ）

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 7 月 13 日(木) 10:30~11:30	祇園西公民館	テーマ：こども（公民館まつりにあったら嬉しいもの） ○座談会 ・子育て世代と高齢者を繋ぐ場
平成 30 年 3 月 8 日(木) 14:00~16:00		テーマ：子どものころを育むあったか手づくりおやつ ○シフォンケーキの試作・試食 ○座談会
平成 31 年 2 月 13 日(水) 10:00~11:30		テーマ：健康・オーガニックについて話そう① ○座談会 ・子育て世代と高齢者を繋ぐ場（自己紹介），次回の予定
平成 31 年 3 月 11 日(月) 14:00~15:30		テーマ：健康・オーガニックについて話そう② ○座談会 ・興味・関心の高い健康づくりについて



対象	子育て世代，高齢者 延 30 人
経費	参加費：50 円（茶菓子代），200 円（シフォンケーキ材料費等）
連携先	祇園西公民館ボランティアグループ「子育て応援交流会」

問
合
せ
先

広島市祇園西公民館
 広島市安佐南区長束六丁目 10-28
 電話 082-874-5181 ファクシミリ 082-875-1760

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 子育て支援を軸とした多世代にわたる住民同士のネットワークづくり。
- 情報交換を通して子育て支援をきっかけとしたまちづくり事業の着眼点や企画力の向上。

3 学習目標

- 子育てに役立つ知識を得たり，技能を身に付けたりする。
- 子育て世代同士，及び子育て世代と高齢者とのネットワークを構築する。
- 子供を中心としたまちづくりについて考える。

4 事前に必要な知識や準備物

- ラベルワークに必要な物（付箋・模造紙・マジック等）

5 留意点

- 事業の目的を伝え，主催者の意図を理解して参加してもらうようにする。
- 話し合いの場では，参加者の意見が互いに尊重されるよう，職員が入りすぎないように心がける。

6 成果

- 自分たちの活動の目的を明確化し，記録として残したことで，適時目的に立ち返ることができ，話し合いの内容を深めることができた。活動もしやすくなった。
- 座談会も参加者だけで進行できるようになってきた。
- アンケート結果（満足度 100%）

7 課題

- メンバーが減り，限られた人数での活動が行き詰っているため，新規メンバーを募り活動の活性化を目指す必要がある。
- 子育て世代の参加が少ない回もあった。来てほしい人に情報が届くように SNS・ツイッターなど広報を検討する必要がある。（チラシを新聞等に織り込んでもらっているが，新聞をとっていない家庭もある。）

8 今後に向けて

- 中・長期的な視点をもって，独立したボランティアグループ化やリーダーの育成を目指す。

親と子の地域で過ごすサマーバケーション

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 8 月 18 日(土) 13:30~	栗生公民館	<p>○子供マナー教室等で学んでいる子供の学習成果の発表の場として、地域住民を招いて発表会を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ、ブラスバンド等のコンサートの開催 ・「子供マナー教室（お茶）」（子供の「お茶席」を開き、来場者をおもてなし） ・「子供マナー教室（お花）」「手作り絵本教室」「子供陶芸教室」（作品展示） <p>○地元の小中学生だけでなく、地元から他市へ進学した高校生や大学生も凱旋して発表。成長した姿を地元で披露する機会とする。</p>
  		
対象	公民館区内の住民	
経費	お茶券の販売：200 円×150 枚＝30,000 円→お茶・おかし代（実行委員会方式） （絵本教室 講師謝金 5,760 円、陶芸教室 講師謝金 5,760 円、お花教室 講師謝金 5,760 円）	
連携先	栗生小学校、府中第一中学校	

問
合
せ
先

府中市栗生公民館
府中市栗柄町 3096-1
電話 0847-45-3701 ファクシミリ 0847-45-3701

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 高齢化が進む地域を活性化させるため、地域の子供たちやその保護者をはじめ、地域の高齢者等、幅広い年齢層が集い交流する場を設定する。
- 昔と生活スタイルが変化してきている中、日本の伝統文化に触れる機会を増やす等子供の生活体験を充実させる。

3 学習目標

- 公民館と学校（コミュニティ・スクール）の連携のもとで、幅広い年齢層が集う機会を提供し、地域を活性化させる。
- 様々な体験活動や学習成果の発表の場の提供を通じて、地域の子供たちの健やかな育ちを応援する。
- 地元を離れた若者の参加を促し、ふるさとを愛する心を育む。

4 事前に必要な知識や準備物

- 小・中学校との連携
- 主催教室との連携
- 楽器の搬入等

5 留意点

- 継続的な実施に向けて、参加者が減らないように声を掛けていく。
- 中学校のブラスバンド部の発表では、引率の先生に指示を出すように役割を分担しておく。

6 成果

- 子供を通して保護者や地域の方とのつながりが広がった。
- 事前打合せや準備などを通して、公民館に来館しない若年層の保護者の公民館利用が促進された。
- 卒業生も継続して公民館へ協力するようになり、現教室の子供たちも将来同じように取り組んでもらえるような流れを作ることができた。
- 中学生が会場のそうじをして帰る等、参加意識が変化してきており、小学生へのよい手本となっている。

7 課題

- 年々若い保護者が多くなり、主催者の意図を伝えることが難しくなっている。
- 取組が始まって14年目になるが、一時期参加者が減少し、存続の危機にあった。10回を目標に取組を続け、少しずつ持ち直して今に至っている。

8 今後に向けて

- 中学2年生（反抗期）と小学生との関わりを増やすことで相手を思う気持ちやコミュニケーション能力の育成を図っていききたい。
- ブラスバンド部以外の部活にも声を掛けて取組を広げていきたい。（美術部からの出展等）

通学合宿

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 10 月 12 日 (木)	小谷地域 センター	○開所式 ○my コップと箸づくり (竹細工) ○班ごとのミーティング ○夕食 ○ナイトウォーキング ○反省会
10 月 13 日 (金)		○登校 (P T A の方が安全管理者として学校まで付添) ○キャンプファイヤー ○入浴 ○宿題 ○反省会
10 月 14 日 (土)		○朝食準備, 朝食 ○大丸目山登山 ○昼食, 片づけ, 清掃 ○閉所式 (参加努力賞の表彰, 班毎にチェックリストの報告, 総評)



対象	小谷小学校高学年の参加希望者 (4 年生男女 - 12 人 5 年生男女 - 22 人 6 年生男女 17 人)	
経費	○参加費を徴収 3,500 円/1 人当たり × 51 名 = 178,500 円 ○まちづくり協議会 20,000 円助成金 (青少年育成費として)	合計 198,500 円
連携先	○小谷小学校 (校長, 教頭, 担任の先生方), 小谷小学校 P T A (59 名) ○地元自治会 (小谷小学校区市民協働まちづく協議会) 女性部会 (21 名) 環境部会 (6 名) おやじの会 (5 名) 文化・青少年育成部会 (6 名) 広大生 (4 名) センター職員 (2 名)	

問
合
せ
先

東広島市小谷地域センター
東広島市高屋町小谷 5560
電話・ファクシミリ 082-434-3758

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 地域における人間関係の希薄化に伴う子供達の体験活動不足やコミュニケーション能力の低下が懸念されており、子供たちのコミュニケーション能力や自主性を養う。

3 学習目標

- 体験活動を通して、身に付けておくことが望ましい技能（ナイフの使い方や火の扱い方等）を身に付ける。
- 異学年（4, 5, 6年生）との集団生活の中でコミュニケーション能力や自主性を育む。

4 事前に必要な知識や準備物

- 企画～準備委員会の立ち上げと打合せ～実施～実施報告～反省会を含む流れは時間も要するため、きめ細かい準備が必要であり協力体制づくりを丁寧しておく。
- 事前に児童の健康管理票及び承諾書の提出を義務づけている（規定様式）
- テーマに対するチェックリスト一覧表を作成（班ごとに自己管理する）し、今後の反省材料とする。

5 留意点

- 参加への意欲を持たせるため4年生～6年生を通じて3年間、自主的に参加した者には「参加努力賞」の授与をする（29年度からスタートする6名を表彰する）
- 規律ある集団生活を身に付けるため、全員が合宿に向けた意思疎通を図るテーマを設定し自主的、積極的に各自が目的に向かって活動できるようにする。
- 異学年との集団生活は協力と創意工夫する事で自主的に行動をすることが期待でき、活動を通してコミュニケーション能力の育成の場とする。

6 成果

- 参加者で班編成とリーダーの選任や利用する部屋に合宿テーマを掲示して毎日全員で確認することによって自覚と自主性、行動力を促し目標に向かって協力体制づくりができた。
- 2泊3日の短期間での合宿は、よい思い出づくりや集団生活のルールについて考えることができ、望ましい人間関係づくりができた。
- 積極的な意見交流と協力、スケジュールに合わせた自主的な行動、考える力などが養われた。

7 課題

- 地域センターは限られたスペースであり、衛生面の設備不足（洗面、トイレ等）なので児童の参加人数が限られ最大でも50名迄であり、それ以上は受け入れるスペースがない。
- 所持品には名前、忘れ物、毎年繰り返し伝えるが必ず最後に不明の物と忘れ物がある。

8 今後に向けて

- 小谷地域センターの伝統的な事業であり、問題点、課題などは反省会で意見を述べ合って少しずつ改善レベルアップに繋げている。

宿泊体験学習

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 8 月 2 日 (木) 14:00~	重井公民館	<ul style="list-style-type: none"> ○講話 <ul style="list-style-type: none"> ・「重井の昔と今」「因島商工会議所の仕事」「因島の花 除虫菊」 ○夕食 <ul style="list-style-type: none"> ・カレーを保護者と協力してつくる ○講話 <ul style="list-style-type: none"> ・「重井のシンボル“白滝山”」「重井町の歴史から町のお宝発見！」 ○振り返り ○花火 ○就寝
8 月 3 日 (金) ~12:00		<ul style="list-style-type: none"> ○散策 (善興寺) ○講話 <ul style="list-style-type: none"> ・「フィールドワークに行こう！重井村 88 カ所巡り」 ○フィールドワーク (3 年生と合同) ○活動のまとめ (新聞づくり) ○解散



対象	重井中学校 1 年生 15 人 (男子 6 人, 女子 9 人)
経費	参加費 500 円 (カレー材料費, 朝食代, 花火等)
連携先	重井中学校, 重井町文化財協会, 白滝保勝会, 因島商工会議所, 因島除虫菊の里連絡協議会, 重井中学校 P T A

問
合
せ
先

尾道市重井公民館

尾道市因島重井町 2978

電話 0845-25-0016 ファクシミリ 0845-25-0835

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 中学や高校を卒業したら進学等で島から離れてしまう子供たちに対して、将来地域に戻ってきてもらいたいという思いから、地域を学ぶ機会を増やすことで地域への愛着を持たせる。
- 公民館や学校単独の取組では限界があるため、連携協力して地域で子供たちを育てていく取組をすすめる。

3 学習目標

- 地域の方を講師に迎え、重井町の自然や歴史・文化・産業などについての話を聞き学習を深めることを通して郷土愛を育む。
- 宿泊体験を通して、基本的な生活習慣や社会的ルールを身に付け、協力することの重要性を学ぶ。

4 事前に必要な知識や準備物

- 保護者への説明（中学校）
- 宿泊に伴う教育委員会との連携
- 施設に風呂がないため、隣接する小学校のプールのシャワーを借りることとした。

5 留意点

- 病気・事故等の緊急時の対応。

6 成果

- 保護者や学校の先生にも協力してもらい運営をスムーズに行うことができた。
- 事前、事後のアンケートを実施し、地域への興味・関心や学びの変化をみてとることが出来た。課題意識を持つ子供が多くいた。
- 公民館への宿泊を体験することにより、災害時での対応へもつなげることができる。

7 課題

- 初めての取組のため、保護者への連絡が6月になってしまった。

8 今後に向けて

- 初めての試みであったが、運営もスムーズに行うことができ、地域や保護者も協力的であり、中・長期的な見通しをもって継続して取り組んでいく。
- 中学校による保護者への説明を4月の段階で行う。
- 小学校や他の組織とも連携をとりながらより効果的な取組になるようにしていく。

防災フェア in 向東

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 8 月 5 日(土)	向東公民館	各団体長に協力依頼
11 月 6 日(月)		連携団体へ「防災フェア」実施説明会
平成 30 年 12 月 2 日(土)		防災フェアの具体的活動の打合せ会（小・中学生含）
1 月 13 日(土)		小学生・中学生との最終打合せ(子供の役割, 司会・クイズの出題, 活動説明・炊き出し等について)
1 月 20 日(土)		前日準備, 団体・対象の子供との交流
1 月 21 日(日)		○防災グッズ展示と説明○防災クイズ大会○防災マップづくり○段ボールで簡易トイレづくり○負傷応急処置の方法○炊き出し体験○講演(被災者の体験談)



対象	各種団体長, 各種団体 小学生 中学生
経費	60,643 円 (内訳: ・需用費 21,584 円・役務費 12,000 円・食糧費 27,059 円)
連携先	区長会, 社会福祉協議会, 公衆衛生協議会, 民生委員会, 体育協会, 女性会, 老人会, 保健推進委員会, 消防団, 地域包括支援センター, 防災アドバイザー, 向東小学校, 向東中学校, 向東小 P T A, 向東中 P T A, 尾道市総務課生活安全係

問
合
せ
先

尾道市向東公民館
尾道市向東町 8 6 7 0 - 2
電話 0848-44-3955 ファクシミリ 0848-44-3955

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 各種団体・小中学校が繋がり、安心・安全に暮らせるまちの基盤づくりとして、公民館を核とした地域の防災力の向上を図る。
- 子供たちの自主・自立性を育てると共に、地域で子供を育てる風土をつくる。

3 学習目標

- 防災グッズの展示や説明、防災クイズ、講演等を通して、「自助」「共助」「公助」の考え方を知る。
- 簡易トイレを作ったり、応急処置をしたりすることができる。
- 地域で協力して防災を行っていくという意識を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 当日までの準備を5回行った。この準備が重要でありここで地域のネットワークづくり・地域の活性化に繋がる取り組みができた。

5 留意点

- 企画段階から小中学生にも参加してもらうことで、子供たちの自主性を高められるようにした。
- 「防災」を1つの手段として地域の子供から大人までが繋がる場を設定した。

6 成果

- 地域住民の当日参加が100人近くあり、防災意識の高さが伺えた。（スタッフは109人・計201人）
- 向東町の16団体を網羅して、ひとつの行事に向けて協働できた。
- 子供達が、企画の段階から積極的に関わり、生き生きと活動しており、防災意識の育成に繋がった。
- どのブースも大人のスタッフが、子供たちを全面的に支援・指導して活躍の場を与えてくれた。

（アンケート結果：肯定的評価100%）

「地域住民の繋がり大切さ」「子どもと共に行う行事の有用性」「公民館の地域活性化への役立ち感」

7 課題

- 他の行事と重なってしまったため、当日の子供の参加数が少なかった。特に中学生の当日参加はなかった。（スタッフとして参加のみ）
- 大人と子供と一緒にって行事を行ったが、三世代交流ができたと感じた人の割合が他の項目より低かった。

（アンケート結果：肯定的評価94.4%）

「大人と子供と一緒に活動することで、三世代交流ができた」

8 今後に向けて

- 行事がひとつのイベントとして終わらないようにするために、事業が繋がるよう連続性を持たせたい。（平成30年度：地域の宝を探せ大作戦～環・輪・和・話で繋がるまちづくり～）

防災訓練&炊き出し訓練

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 10 月 31 日 (水) 18:30~21:00	口和自治 振興セン ター	<p>○「DIG」図上訓練</p> <ol style="list-style-type: none"> ①グループリーダー、発表者の決定（自治会ごと） ②地図上にあるものを書き込む（青：川，茶：主要道路，緑：学校等） ③防犯拠点にカラーラベルを貼る（青：消防署，赤：警察，緑：避難所等） ④知っている防災情報や「防災まち歩き」で見つけたものを記入する （緑：安全な施設，青：災害時に役立つ場所，赤：危険な場所等） ⑤避難場所までの経路を記入する。 ⑥発表（3班） ⑦防災，災害対応の視点から見て，自分達の住む地域の特徴を記入する。 ⑧土砂災害ハザードマップで色分けする （黄：土砂災害危険区域，赤：特別警戒区域等） ⑨発表（3班） ⑩災害を想定 ⑪想定した災害が発生した場合の対応の仕方を話し合う（被害想定，事前準備等） ⑫発表（3班） ⑬講師の評価と座学（行政による避難情報と求められる行動について等） <p>※防災グッズや非常食の展示，炊き出し（女性部）</p>



対象	自治会役員，消防団， 72 人
経費	講師謝金：0円（県の危機管理課職員のため）
連携先	庄原市社会福祉協議会 口和地域センター， 口和自治振興区 女性部 庄原市消防団 口和方面隊，庄原警察署 口和駐在所

問 合 せ 先	庄原市口和自治振興センター 庄原市口和町向泉 934-4 電話 0824-87-2213 ファクシミリ 0824-87-2135
------------------	---

2 講座設定の理由（学習の目的）

○住民自らが居住地域の危険個所を熟知すると共に、地域コミュニティの強化を図り、防災、減災に地域を上げて活動し、災害発生時には、速やかな避難や命を守るための対応が行えるようにする。

※DIG（ディグ）は、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練です。Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字を取って命名されました。

3 学習目標

○地域の危険個所や防災拠点等について知る。

○防災について住民自らが自分のこととして考え、「自助」「共助」の意識を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

○防災グッズ、非常食

○町内地図（A1サイズ）、○防災マップ

○シール、マジック、ビニールシート（地図上の中からマジックで書くため）等

5 留意点

○防災に関する一般的な話ではなく、具体的な話ができるようにする。（高齢者や危険個所が多い地形に対応）

○参加者が考えた避難方法を生かせるようにする。

6 成果

○防災意識を高めるところができた。（災害時には、どこのエリアが危険であって避難する際には何に気をつければいいか知ることができた）

○どこにどのように避難するか具体的な話し合いができ、共通認識を図ることができた。

○テレビの取材もあり、研修の様子を広く広報することができた。

○防災啓発ビデオ（自主防災組織立ち上げ）を作成し、今後立ち上げの可能性のある自治会に見てもらった。

○災害用伝言ダイヤル疑似体験ビデオを作成し、他の研修でも利用することができた。

○防火、防災に伴い地震対策のビデオも作成した。

7 課題

○福祉避難所の確保（要介護者への対応、町内の福祉施設との提携）

○自治会の役員の高齢化、固定化による業務の負担感

○研修の設定時間が限られており（夜2～3時間）、できる内容が限られてくる。

8 今後に向けて

○自治会の会議等の機会がある度に防災の話（防災啓発ビデオ）をすると共に、ビデオの貸し出し等も行い、広く周知していく。

○避難所の運営訓練を行うことで自主防災組織のイメージをつくる。

○「公助」には限界があり、「自助」「共助」による補完体制を整備していく。

郷土料理本「残しておきたいおふくろの味」

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 24 年～ 平成 30 年 毎月 1 回 9:00～12:00	神石協働支援 センター	<p>○伝統食・行事食等の郷土料理の掘り起しとレシピ化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 18 年「いきいきふれあい教室」結成 ・平成 24 年「残しておきたいおふくろの味」誌を発刊 <p>○レシピ集に載せ切れなかった郷土料理等の掘り起し，当時の古い食器類の発掘，レシピ化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度（14 回，延べ 119 人，料理約 50 品） ・平成 27 年度（18 回，延べ 148 人，料理約 60 品） ・平成 28 年度（21 回，延べ 108 人，料理約 30 品） ・平成 28 年度後半は，資料の整理，料理等の手直しを中心に行った。 ・平成 29 年度後半から，出版社との調整と校正を数度にわたり行った。 ・平成 30 年「続・残しておきたいおふくろの味」誌を発刊



対象	いきいきふれあい教室の会員 6 人
経費	印刷・製本費：約 160 万円 各回参加費：実費（食材費等）
連携先	神石高原町内全小・中学校，「こんにやくづくり」「豆腐づくり」等各講座

問合せ先

神石町神石協働支援センター（旧神石公民館）
神石郡神石高原町高光 2117-10
電話 0847-87-0181 ファクシミリ 0847-87-0331

2 講座設定の理由（事業の目的）

○少子高齢化が進む中、伝統文化継承の取組として、「食文化」に着目し、郷土料理本の作成を行うことで、地域の伝統を守ると共に高齢者の活躍の場を設ける。

3 学習目標

○郷土料理の掘起こしを行う中で、各地域の長年の知恵や工夫により、身近な食材を利用して、多種多様な郷土料理が作られていることを知る。

○高齢者の活躍の場を設けることで生きがいをもてるようにする。

4 事前に必要な知識や準備物

○出版社との打合せ

○本に載せるレシピの選考

5 留意点

○月毎に開催日を決めることで、会員が参加しやすいように柔軟に対応できるようにする。

○活動毎に振り返りの時間を設け、各回の反省と次回に取り組むテーマを決め、会員交代で講師になる。

○料理別に担当を決めることで役割を明確にし、料理手順を撮影、終了後料理毎に反省とレシピ等のまとめを行う。

6 成果

○活動を通して、参加者の意識も変わってきており、地域での「生きがいづくり」や「まちづくり」へとつなげることができている。

○本に掲載されたこんにゃく料理が「神石高原ランチ」として町内全小中学校の給食メニューの中に取り入れられ、給食放送等を通じて、御飯を中心とした一汁一菜の日本古来の食事の大切さや、早起きして朝食をつくり食べることの大切さを児童生徒に啓発されている。

○会員の高齢化が進み、会員数が減少したが、続編作成という目標を設定して、郷土料理（伝統食・行事食・保存食）の掘り起こしを継続してきた。

7 課題

○高齢化により会員数が減少しており、掘り起こしや資料の整理等の継続が難しかった。

○少子・高齢化により後継者に伝えていく機会等が少なくなっている。

○老老介護等の現状を抱えて、会員の集まりが悪い時が多々あった。

8 今後に向けて

○地域の行事で講師として郷土料理を紹介し、啓発活動を行う。

○保育所、小・中学校、高等学校等と連携し、ゲストティーチャーとして味噌作りの指導をしたり、協働支援センターでは地域の子供たちを対象にクッキング教室を実施し食事の大切さを伝えたりする。

満喫！かべ学「ボランティア養成講座」

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 月 1 回程度 13:30~15:30	可部公民館・ 可部地区一円	○定例会 ・年間計画作り等 ○定期学習会（現地を見る，現地の人のお話を聞く，資料の作成） ・勝圓寺の歴史，品窮寺の歴史，散策マップ等
①7月22日（土） ②8月26日（土） 10:00~12:00	可部公民館	専門的な学び（講師：可部郷土史研究会） ○「可部のまち歩きボランティアガイド」養成講座①② ・「可部のまち」を知る～可部のまちは，どのように生まれたのか？～
9月24日（日） 13:30~16:00	可部公民館 可部地区内	専門的な学び（講師：可部夢街道まちづくりの会） ○「可部のまち歩きボランティアガイド」養成講座 ・可部のまちなめぐり
1月27日（土） 10:00~12:00	可部公民館	専門的な学び（講師：可部郷土史研究会） 日本の文化「家紋」を学ぶ
10月15日（日） 9:00~16:00	可部地区内	ガイド実践「可部のまちなめぐりガイドを しよう」
10月19日（木） 13:30~15:30	可部公民館	ガイド実践反省会
①2月12日（月） 13:00~15:00	可部駅～	ガイド実践「終着駅サミット in 広島」に むけて
②2月26日（月） 13:30~15:30	河戸帆待川駅	①（コース下見）②（予行演習） 「可部さんぽ」可部駅～河戸帆待川駅
3月1日（木） 13:30~15:30	可部駅～あき 亀山駅	ガイド実践「終着駅サミット in 広島」にむけて（予行演習） 「可部さんぽ」可部駅～あき亀山駅
3月4日（日） 9:00~11:00	可部駅～あき亀山駅 可部駅～河戸帆待川駅	ガイド実践「終着駅サミット in 広島」 「可部さんぽ」可部駅～河戸帆待川駅，可部駅～あき亀山駅
3月25日（日） 10:15~11:15	明神公園他	ガイド実践 「可部のまちなあるき」可部の舟運案内
対象	地域の歴史に興味があり，ガイドになりたいと思う地域の方 19名	
経費	講師料：6,000円×2時間×4回 参加料無料	
連携先	可部ガイドクラブ，可部郷土史研究会，可部夢街道まちづくりの会	



問
合
せ
先

広島市可部公民館
 広島市安佐北区可部三丁目 19-22
 電話 082-814-4031 ファクシミリ 082-814-4721

2 講座設定の理由（事業の目的）

○以前からあったガイドクラブやまちづくりの会のメンバーの高齢化により、ガイドができる人が減ってきており、古い町並みが残る歴史文化のある可部の町を広く伝えていくためにも、ガイドが出来る人を増やしていく。

3 学習目標

- 可部の歴史について知る。
- 学習と実践を交えてガイドの知識とスキルの向上を図る。
- ボランティアガイドになって、地域の魅力を伝えるとともに、地域への愛着を深める。

4 事前に必要な知識や準備物

- コースの下見、予行の実施
- HPや公民館まつりで発信していく。

5 留意点

○新規の方と以前からおられる方には知識量に差があるため、基本的な情報の共有と新たな知識の蓄積を目的とし講座を進めていく上で配慮する。

6 成果

- 養成講座の後、継続してガイドをする人は4人、一年前の修了生を含め計8人となった。更に以前から活動されているガイドクラブの方（5名）に学びながら積極的に実践にチャレンジして少しずつ自信をつけている。
- 「終着駅サミット in 広島」に参加された方（県外含）たちに実際にガイドをすることができた。この他にも山歩きの家や広島シニア大学等からもガイドの依頼がきている。

7 課題

- これまで数多く可部の紹介ブックが作成されているが、ガイド用のテキストとして整理されたものがない。
- 歴史を学べば学ぶほど、話したいことが増え、ガイドの説明時間が長くなることがある。
- ガイド希望者を対象にガイド養成講座を実施したが、間口を狭めることとなり新たな人材の発掘につながりにくい。
- 様々な理由で結果的にガイドにならない方もいる。

8 今後に向けて

- ガイド養成講座とするのではなく、学ぶことを中心とした講座「満喫！かべ学」で歴史について学ばれた方の中からさらにガイドに関心のある方に声をかけるようにしていく。
- 新規のガイド用のテキストブックを作成することで経験値による差を埋めるようにする。
- 新規のガイドコースを作る。
- 歴史を学ぶだけでなくガイド力（プレゼン能力・説明力・資料・心構え・時間配分等）の育成を図るプログラムを実施していく。

地元の素材で和紙作り

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 31 年 1 月 19 日(土) 10:00~12:00	協和公民館	<p>○趣旨, 目的, 流れなどの説明</p> <p>○楮（こうぞ）を切る。 ・鎌を使って楮を切る。</p> <p>○楮の皮をむく ・蒸した楮の皮を熱いうちにむく。(なるべく一枚の皮になるように)</p> <p>○紙を漉く ・はがきサイズの和紙が作れる簀桁(すげた)を使って紙を漉(す)く。</p> <p>○振り返り</p> <p>【和紙ができるまでの工程】 ①木を刈り取る②蒸す③皮をむく④皮の表面を削る⑤水にさらす⑥煮る⑦再度水にさらす⑧ごみをとる⑨繊維をほぐす⑩とろろあおいを水に浸す⑪紙を漉く⑫漉いた紙を積む⑬水気をとる⑭乾かす</p>



対象	小学生・保護者
経費	参加費 300 円
連携先	府中明郷学園, 地区女性会

問
合
せ
先

府中市協和公民館

府中市木野山町 48-1

電話 0847-68-2121

ファクシミリ 0847-68-2121

2 講座設定の理由（事業の目的）

○集落が谷間に位置し、土地も狭く稲作が発展しにくい中で、産業として江戸時代から和紙作りに取り組んでいる。地域の産業を伝えると共に特産品について学んだり、製作体験をしたりすることで地域への愛着を深める。

3 学習目標

○子供たちと地域住民との結びつきの強化
○子供たちの自主性・協調性の育成
○伝統文化の継承

4 事前に必要な知識や準備物

○説明資料（和紙づくりの流れを示したもの）
○原料（楮）や和紙作りの道具（簀桁）

5 留意点

○子供が対象なので長時間にならないようにする（長くても3時間程度）。
○鎌を使ったり、皮を剥いたりする活動をさせるため、安全面に配慮する。

6 成果

○小学校では総合的な学習でも取り組んでおり、積極的に質問をするなど意欲的に参加していた。
○子供たちは鎌を使ったり、和紙を漉いたりするなどの普段できないことを体験することができた。
○子供たちが和紙作りの看板を作成し、寄贈してくれた。
○地元の産業であった和紙作りを体験することで和紙に興味をもち伝統文化の継承につながっている。

7 課題

○小学校の授業との連携で公民館を活用しているが、この活動をきっかけにして普段から公民館に来てもらえるようにしていく。（5つの公民館に対して小学校が1つなので厳しい面もある）
○保護者の送迎がないと事業への参加が難しい。

8 今後に向けて

○今後も小学校と連携をとりながら進めて行く。
○将来的には和紙を生かしたランプシェードなど発展的なものを作成していきたい。

